

令和5年度学校自己評価システムシート（県立熊谷特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒の障害特性や教育的ニーズを踏まえた最適な学びを進め、一人一人の良さや可能性を最大限に伸ばし、保護者・地域から信頼される学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の可能性を引き出す授業実践 保護者や地域と連携した社会に開かれた学校づくりの推進 子どもたちが安心安全に過ごせる教育環境の整備・充実 教職員一人一人が本気で取り組む学校働き方改革の推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 （ 月 日 現 在 ）			実 施 日	学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>○保護者との合意形成に基づく教育支援プランを活用した、一人一人の課題や手立てを明確にした丁寧な授業づくりが行われている。</p> <p>○個別最適化された学びの実現には ICT の活用は不可欠であり、児童生徒、保護者からの期待やニーズは年々、高まっている。そのため、教職員一人一人の実践的指導力を高める必要がある。</p> <p>○児童生徒の多様な教育的ニーズに対応するためには、自立活動部、支援部、外部専門家等が連携した支援体制の構築が不可欠である。</p>	(1) 児童生徒一人一人の課題や手立てを明確にした授業づくり	<p>①児童生徒一人一人の丁寧な実態把握と課題の明確化を図り、指導に向けた共通理解を深める。</p> <p>②積極的な学習評価に取り組み、授業改善に生かす。</p>	<p>①児童生徒の実態や課題を共有し、指導の方向性を定めることができたか。</p> <p>②日々の学習評価を基に、授業改善が進められたか。 (保護者・教職員アンケート活用)</p>				学校関係者からの意見・要望・評価等
		(2) ICT を活用した「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<p>①ICT の効果的な活用を通して、児童生徒一人一人の主體的な学びを促す。</p> <p>②教職員の学び合い、優れた実践事例や成果の共有、効果的な研修を充実させる。</p>	<p>①ICT を効果的に活用し、児童生徒の学習理解、定着、活用に変容が見られたか。</p> <p>②学びや研修の成果を授業に生かし、教員一人一人の力量が高められたか。 (保護者・教職員アンケート活用)</p>				
		(3) 教職員一人一人の実践的指導力の向上	①学級・学年・学部を超えた校内組織の活用や外部専門家等との連携による支援体制づくりを進める。	①学校全体がチームとして協働し、児童生徒・保護者の多様なニーズに対応することができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				
		(4) 多様な教育的ニーズに対応する支援体制の構築						
2	<p>○新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を引き続き徹底する中で、「ポストコロナ元年」として子供たちの学びを更に進める必要がある。</p> <p>○通学区域は、6市8町1村と広域であるが、特別支援学校のセンター的機能を活用した地域支援には積極的に取り組んでいる。</p> <p>○連続性のある多様な学びの場の充実に向け、コロナ禍ではあるが、創意と工夫により、支援籍学習にも積極的に取り組んでいる。</p>	(1) コミュニティースクールとしての地域との協働や積極的な情報発信	①HP 等での教育活動の発信を更に充実させるとともに、学校運営協議会を有効に機能させる。	①地域への教育活動に関する情報発信や協働での学習活動について検討・実施することができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				学校関係者からの意見・要望・評価等
		(2) 特別支援学校のセンター的機能を活用した地域支援の充実	①地域の就学前施設、小・中・高等学校からの相談等に対して適切な助言・支援を実施する。	①コーディネーターや支援部を中心として、保護者・地域からのニーズに丁寧に対応できたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				
		(3) 連続性のある多様な学びの場の充実	①児童生徒・保護者のニーズ、実施方法を工夫する中で取り組みを進める。	①個々の教育的ニーズに応じて、希望者に対して継続的に実施することができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				
3	<p>○医療的ケア、発作時の対応等について関係者間での情報共有と緊急時の対応訓練等が計画的に実施されている。</p> <p>○教育活動におけるヒヤリハット事例について組織的に情報共有が図られている。</p> <p>○予期せぬ自然災害や事故、感染症を想定した組織的な訓練や準備を継続する必要がある。</p>	(1) 一人一人の健康と安全に配慮した教育環境の整備充実	①校内環境衛生及び健康観察を徹底し、安心安全な学習環境づくりに取り組む。	①ガイドライン等を踏まえた引き続きの感染防止対策の実施、徹底した安全点検等、安心安全な学習環境づくりができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				学校関係者からの意見・要望・評価等
		(2) 安心安全な医療的ケアの実施と保護者負担の軽減	①担任、看護教員、養護教諭、保護者がチームとして連携し、安心安全な医療的ケアを実施する。 ②計画的にヒヤリハット事例を共有することにより、危機意識を向上させる。	①情報共有を図りながら、安心安全な医療的ケアが実施できたか。 ②ヒヤリハット事例を共有し、教職員の危機意識が高められたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				
		(3) ヒヤリハットの情報共有	①様々な場面を想定して組織的に対応できるよう日頃からの準備・取組を進める。	①緊急時や自然災害等への組織的な対応に向け実践的な訓練や準備ができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)				
		(4) 緊急時・災害時対策訓練等の充実						
4	<p>○時間外勤務の平均値は県平均を大きく下回っているが、個々に見ると時間外勤務が多い職員が固定化されている。</p> <p>○総業務量の削減や仕事の均等化を図り、一人一人の働き方に対する意識改革を進める必要がある。</p>	(1) 働き方に対する教職員一人一人の意識改革。	①2学期制移行に向けた準備、デジタルツールの積極的な活用、会議等の見直し、教材・教具の共有化、学校退勤時間の設定、学校閉庁日、ノー会議デー、ふれあいデーの計画的な実施など、学校として本気で取組を進める。	①教職員一人一人の働き方に関する意識が高まり、メリハリのある働き方が進んだか。 (健康チェックシート、ストレスチェック、教職員アンケート等、活用)				学校関係者からの意見・要望・評価等